

特集：図書館のよりよい環境づくりー照明

図書館の照明計画の基礎知識

手塚 昌宏

はじめに

近年、全国の図書館の環境が注目されている。その環境設備の中で照明が持つ役割はとて大きい。五感刺激の中で最も情報量が多いのが視覚情報（8割以上）である。図書館の環境を心地よくさせるためには、人の行動の生理心理に対する影響にも注意を払い、光環境の量と質をバランスよく計画することが重要である。現在の図書館の機能や空間構成は多機能化され、書籍を見ることだけではないが、今回は書架照明および閲覧エリアの照明を中心とした全体環境のエリアの照明と、その照明の基礎知識について述べたいと思う。

写真1はスウェーデンのストックホルム市立図書館である。アプローチから階段を上がると、円形状の開放的な空間に書架が壁面全体に見える。分かりやすく、心地良い環境ではあるが、この空間が開放的にそして広く感じるのは、採光および壁・天井に対する間接照明や書架に対してしっかりと照明が計画されているからでもある。また中央に吊るされたペンダントは視環境に心地良いアクセントとメリハリをつけて記憶に残る表情を作り出している。このように空間の第一印象を左右するのは、天井・壁・床に対する照明のバランスである。

ここではシリンダー状の吹き抜け上部壁面に間接照明が施され上部のハイサイドライトによる昼光照明とバランスよく計画がされ開放感を与えている。壁面書架には、書架上にアームが設置された照明器具により眩しさを抑えながら書籍に対して照明がされている。現在（2017年10月時点での調査）の光源は、LEDを使用していた。上部の建築間接照明はこの時点では三波長形蛍光灯ランプのようであった。床中央付近の照度はそれほど高



図1 ストックホルム市立図書館(スウェーデン)
設計：Erik Gunnar Asplund

くはないが、書籍に対しては十分な照度も得ていることから書籍に対しての注目度が高まり、空間的な広がりと独特の環境を作り出している。

快適な図書館照明の計画のポイント

主な計画のポイントは、①空間の心地よさを作る照明、②書架照明（書籍が選びやすい照明）、③閲覧テーブル照明（キャレルデスク照明）などが考えられる。

①空間の心地よさを作る照明

天井、壁、床に対する明るさのバランスにより、開放的に感じたり閉鎖的に感じたりする。さらに安定した環境に感じることや、不安定に感じることもある。例えばエントランスから図書館に入る際に、正面の壁面が暗いと入りにくい空間をつくるだけでなく、不安感を与え人の動きを止めてしまうこともある。すべての面を明るくすることやすべての空間を明るくすることが心地良い空間をつくることではなく、空間の機能目的、人の動きに対応したメリハリのある光のシーケンス（連続）を計画することが大切である。

②書架照明（書籍が選びやすい照明）

目的の書籍のところまでたどり着くために、わかりやすいサイン計画に対応した照明がまず必要である。書架にたどり着き、書架の中から、目的の書籍を素早く見つけるためには、本の背の文字が読める明るさが必要であるが、単に照度が高ければ良いということではなく、本を見たときに照明器具の光源が同時に目に入りやすく、眩しく感じないようにすることが必要である。照明器具は